

苫小牧市教育委員会会議録

会 議 区 分	苫小牧市教育委員会 第 10 回 定例委員会
日 時	令和5年10月27日 自 15時00分 至 16時00分
場 所	第2庁舎2階南会議室
出 席 委 員	教 育 長 福 原 功 委 員 佐 藤 郁 子 委 員 齋 藤 智 子 委 員 岡 田 秀 樹 委 員 高 橋 憲 司
欠 席 委 員	
会議録署名委員	岡 田 秀 樹 委員
会議録作成職員	総務企画課主事 竹 中 響 紀
事 務 局 職 員	教 育 部 長 園 田 透 教 育 部 次 長 山 地 吉 明 教 育 部 次 長 齋 藤 貴 志 教 育 部 参 事 東 峰 秀 樹 教 育 部 参 事 桑 島 久 典 学 校 教 育 課 長 江 原 倫 代 総 務 企 画 課 長 下 濱 辰 哉 総 務 企 画 課 主 事 竹 中 響 紀
会 議 案 件	別紙のとおり
会議の経過概要	別紙のとおり

1 委員会開会の宣言（福原教育長）・・・15時00分
2 会議録署名委員の指名（岡田秀樹委員）
3 会議録の承認
（福原教育長） 第9回定例教育委員会（令和5年9月22日開催）の会議録について、このとおり調製することとしてよろしいでしょうか。
（一同「はい」の声）
-会議録どおり承認-
4 教育長の報告
（福原教育長） それでは、9月22日開催の第9回定例教育委員会以降の主な動きなどについて報告をさせていただきます。
今月に入り小、中、高校の開校に伴う周年事業が続いております。14日には北海道苫小牧工業高等学校開校100周年、20日には苫小牧高等商業学校学園創立70周年、21日には高橋委員にも出席をいただきましたが、植苗小学校開校120周年、植苗中学校開校75周年と、それぞれに記念式典が執り行われました。さらに、明日28日には、委員の皆様にもご案内と存じますが、沼ノ端小学校開校120周年記念式典が開催されます。加えて、本年は市制施行75周年、苫小牧港開港60周年、出光興産北海道製油所操業50周年という年回りでもあり、各周年事業を通じて、先人の功績とともに街の発展を感じているところでございます。

次に、道教委による「学校における暑さ対策・熱中症対策(案)」について、既に新聞、TV等メディアも取り上げておりますが、道教委の考えとして、暑さ指数や熱中症警戒アラート発出時における臨時休業等の取扱い、夏季休業期間の弾力的な取り扱いなどのほか、エアコン設置に伴う国への緊急要望や、エアコン整備を基本に、緊急的に簡易型クーラーの設置を検討するなどの案が示されたところでございます。市教委では、既に（前回の教育委員会議でお諮りしましたが）「学校防災マニュアルの一部改訂」「熱中症対策ガイドラインの策定」を行うとともに、令和6年度の夏季休業を延長する計画としております。さらに、9月の市議会定例会補正予算審議で学校への簡易型クーラーの配備を決定しており、今回の道教委の対策案は、私どもの進めている対策に追随する形となっておりますが、今後も引き続き、道教委の方針などを注視し、対策等が後手に回ることなく取り組んでまいります。
次に、先月22日に、委員の皆様と勇払小学校を訪問し、複式授業の様子など学校現場を視察するとともに、校長先生等と意見交換を行い、さらに、その後の教育委員会議において、勇払地区の学校規模に関する保護者アンケートを報告したところでございます。また、今月13日に市長が市内各地域を訪れ、直接市民と対話する「まちかどミーティング」が勇払地区で開催されました。その中で、勇払自治会から勇払小中学校の在り方、存続を求める質問があり、学校運営協議会（コミスク）での説明や意見交換、さらには保護者、児童生徒に対してのアンケートの実施などを行っている現状に加え、今後は地域と議論を尽くすことが重要との認識を示したところでございます。勇払は本市にとって起点となる地域でもあり、今後の学校の在り方について、地域や総合教育会議での議論を重ね、関係者の理解が得られる勇払小中学校の在り方を示したいと考えておりますので、引き続き、このテーマについて様々な角度からの、ご提言、ご意見をお願いしたいと思います。
次に、今月2日から6日の日程で市議会令和4年度決算審査特別委員会が開催され、一般会計及び企業・特別会計の決算審査が行われました。全会計とも全会一致で認定され、12月の定例会で承認される見通しでございます。教育費の審査では、学校教

育関連で、部活動指導員配置事業、多子世帯給食費助成事業、児童・生徒活動経費など、社会教育関連では、中央図書館管理運営、苫小牧市史編集事業などで質疑が行われました。児童生徒指導活動経費で、職業体験についての考え方について、重要な教育活動と位置付けていることや、各学校で企業見学などを通じ地元産業を知る機会に取り組んでいること、さらには、今後も職業体験先を拡大したい意向も示し、このことを今月開催の校長会でも認識を共有したところでございます。市史編集事業の質疑では、当初令和5年度刊行としていたものを、コロナの影響等で執筆依頼や資料収集が進まなかったことから、刊行年度を令和10年度に改め、市史編集審議会です承を得たことを答弁するとともに、早期に完成させるべきとの提案に対しては、本編の執筆、資料収集のほか、年表作成、資料編作成を精力的に作業を進めるものの、内容や記述の正確さが重要であり、慎重、丁寧な作業が必要なことから、前倒しの刊行は考えていない認識を示したところでございます。

最後に、暑かった今年の夏から、最近では秋を通り越して冬へ向かっている今日この頃ですが、美術博物館で9月23日から開催しております出光美術館近代美術名品選が、今月24日から後期展示がスタートしたほか、市民文化祭が9月から11月にかけて市内各所で様々な事業が行われており、また、今月25日、26日には長生大学大学祭が開催されるなど文化芸術事業が続いております。11月3日には委員の皆様にもご出席をお願いしておりますが、令和5年度苫小牧市文化賞・文化奨励賞授賞式を予定しております。時節柄、ご多用かと存じますが、ご理解ご協力をお願いいたします。報告とさせていただきます。

私からの報告は以上ですが、何かご質問等ございませんか。

(一同「なし」の声)

5 議 案

(福原教育長) 本日は審議する議案はございません。
6 報告・協議
報告(1) 令和4年度「部活動の地域移行に関するアンケート」結果について
(学校教育課長) -令和4年度「部活動の地域移行に関するアンケート」結果について説明-
(福原教育長) 質疑に付します。何かございませんか。
部活動の地域移行のテーマが出た最初は、教職員の負担軽減が目的の一つに出ていましたが、時間がたつにつれてそれがぼやかされ、人材がないなどのいろいろな理由のもとで、今現在に至っているという理解をしています。実際部活動をしている中学生に学校での部活動と地域移行での部活動はどのように映っているのか、同じ部活のように思っているのか、スポーツに限定しているわけではないですが、例えば一つのスポーツをする際に、スポーツクラブに入ってそのやってきたスポーツをやることと、中学校の部活動でやることと今の中学生は同じ感覚でいるのか、ずっと正直疑問に思っているのですがいかがですか。
(教育部斎藤次長) 今でもやはり小学校を卒業して中学校へ行ったとき何をしたいかと聞くと、部活動を頑張りたいというのが圧倒的に多い状態です。そこで子供たちが言っている部活動は、地域で行っているものとは少し違うと思っております。やはり、中学校へ行って中学校の中にある部活動をしたときずっと思っていると思いますが、そこが地域移行として地域のクラブチームで活動をするとなったときに、自分の学校でやりたかったのに少しイメージと違ってできないということがないかがすごく心配される部分ではあります。送迎など保護者の負担の問題もありますし、いろいろ聞いている中で、競技によってやはり大きな違いがあり、例えば少人数のバスケット

は学校の部活動で特に困っていることがないため、地域移行がイメージできていない
ですとか、逆に団体競技はだんだんなくなっており、サッカーがやりたいのに学校に
はないからできないという子もいるので、全体として今やっている活動を縮小したく
はないですし、できていないところの機会を増やしてあげる方向にもっていきたく
いう考えがあります。やはり自分の学校にあるからやりたいと考えている子供が多い
と思いますので、そういった子が逆にできなくならないような仕組みづくりが必要だ
と思っております。

(佐藤委員) 6、7ページのアンケート結果のところ、中学校の保護者からわか
らないという回答が多く、6ページでは期待していることがわからない、7ページで
は不安に思っていることがわからないという回答が多くあります。そして、制度内容
についてわからないので何とも言えないという回答項目もありますが、この制度につ
いての理解度によって、答えるか、答えないかというところになってくると思います。
アンケート調査の概要についてのところで特設ページから回答とあり、そこに説明文
や質問があると思うのですが、そこを読んだだけでは制度がわかりにくいものなの
でしょうか。単純に考えると経費が掛かる、時間の問題もある、ということで学校での
クラブ活動と地域のスポーツクラブで続けることとすみわけが必要になるような感
覚を私は持っているので、その制度がわからないために回答が少ないのかそれとも説
明が足りないのか、難しいのか教えていただければと思います。

(教育部斎藤次長) 部活動の地域移行自体が去年あたりから大きく出てきて、実際
苫小牧に限らずどういうものなのか具体的にわかっているわけではなく、苫小牧の地
域移行についてどう考えればよいのか、見えない中でのアンケートとなっております
ので、分からないという意見は当然だと思います。そこは少し見えるように具体的に
進めていこうと準備しているその前段階としての今日となっております。また、総合
教育会議を11月に予定しておりますので、そこで初めて苫小牧の地域移行の進め方
について具体的なビジョン、ロードマップを見せられるように準備しており、地域や
保護者の方もそこから具体的に考え始められるのかなというところです。これまでは

みんな雲をつかむような何も見えない状態で進んでいました。

(佐藤委員) 今後これが結果も変わって数字も変わっていくということで理解してよろしいでしょうか。

(教育部斎藤次長) はい。そうですね。

(福原教育長) 私も都道府県のいろいろな会議、議題で全国の会議や道内の教育委員会会議などに出席しております。例えば中学校が一つ、小学校が一つの小さい町であれば、もうすでに地域移行になっていると思いますし、東京23区や札幌も含めて学校数が何十校もあり、いろいろなスポーツクラブもあるところであれば案外スムーズにいくのかと思います。本市のような地域は中学校の数が十何校あり、東西に長くて勇払中学校から凌雲中学校までを地域としてくることができるのかという状況の中で、スポーツクラブも大都市に比べ極端に少ないですが、だからといってないわけではなく、非常に難しいと思います。いろいろな会議に出席して思うのですが、小さいからいい、大きいからいいなどのそういった比較をしているのではなく、自分たちのところで地域移行を進めるためにはこのアンケートもそうですが、非常にいろいろな人の意見を聞いてベストな状態へもっていかなければならないと思いました。

(高橋委員) 根本的な話になってしまうかもしれませんが、そもそもその働き方改革も含め、教職員の労働時間がこれからある程度制限される中で、部活動に関する感触はこのアンケートを見ればわかりますが、オーバーする時間を含めたものは教師が担保しなければならない、強制的に聞かなければならないものなのか、その辺はすでに法整備も含めて完全にされている気がしますが、そこの中であとは自己判断で教員へお願いしているのであれば、そもそもそのような話ではなくて、全体として、苫小牧市として、考えるものなのか、それとも各立場個人の見解で教職員が判断し、携わりはどちらでも結構ですからということが問題で今の話になっているのか、若干違う気がします。前向きに受け止めて、お願いされていることを何とかやってあげたいという思いとともに、そこの中で子供たちや保護者が考えていることもすり合わせるそこの中にある課題もまた違っている気がして、この2点に関して、そもそもの教

職員としての携わる時間的な問題、残業も含めた中でその辺はどうなっているのでしょうか。
(教育部斎藤次長) そもそも部活動は学校教育課程とは外れていますが、先生が生徒指導も含めて携わることで手当のようなものも出ている状態ではあります。ただ専門的な知識や技術がある先生がどんどん減っていて、そういった教員の働き方改革についてよく言われるようになってはいました。ただそれが部活動の地域移行の全体と いうか全てとはとらえていなくて子供たちが中心で子供たちの活動機会を維持するために先生の話はあくまで側面だという意味に捉えていますし、関わりたい先生は引き続き関わられるような制度設計にしていきたいとは思っています。
(高橋委員) それは苫小牧市の独自の判断で設定することができるのでしょうか。
(教育部斎藤次長) はい。
(高橋委員) 僕としては教育活動の縛りとして、拘束がないボランティアとしての位置づけで、もしやられているのであれば、ボランティアに関する支援金を苫小牧市から出すのは若干そこもおかしな気がしますので、その辺の制度について本市で決められるものだとすれば、やはり目的としては子供たちのためということを大前提に、指導者として教える立場やそこに関する制度自体をしっかりと示した中でしか進んでいかないと思います。もちろん時間がかかるとは思いますが、ケースによってかなり違いますので、今回のアンケートを踏まえた中で方針というものを一概にこうとひとくくりにしないで対応し、順次見ていく必要があるのかなと感じました。
(岡田委員) 部活動の地域移行ということで、やはり私としては学校の教育活動としての部活動という単なる地域のスポーツクラブとは違った特殊性があり、学校での部活というのはあいまいで、そこが悩みどころとして保護者のかたも専門性について、地域移行に伴い期待があるようですが、学校の部活動という新しい活動に協力してくれる専門的な先生もいらっしゃいますので、そこがやはり大事だと思います。
(教育部斎藤次長) 学校側にとっても部活動の重要性というのは話題には出てきますし、そういった中で一生懸命やってきた先生がいて、生徒指導が成り立っている部

分は多々あるかと思えます。学校から切り離さずにやっていきたいというような意見もありますが、そこを残していくことによりどんどん縮小され、結果として子供たちの部活が無くなっていくような状況になっているということでこの話が出てきています。とはいえこの移行が完全にうまくいくかどうかはわかりませんが、地域民間企業などに全て預けていくことにはなりませんので、学校の関わりや先生方の協力が必要であり、今後も学校の先生方に細かく話を聞き取ってどういうやり方がいいのか大事に進めていきたいと思っております。

(齋藤委員) 本当に壮大なテーマで他の市町村の教育委員さんとお会いした時この話になります。私自身子どもがいることもあって、移動費にいくらまでなら出せるかという意見を求められることもあり、岡田先生もおっしゃったとおりとても難しいと思っております。教育活動の場なのか民間のスクールなのか、地域移行はその中間の位置にきつとなるのかなと思っており、そうなったときにどこまで学校が関わられるのか、完全に民間のものではありませんので、そのたたき台を作るのが本当に大変で難しいですし、苫小牧市に合った形を作らなければならないこともとても難しいと思います。このアンケート結果に保護者の意見として載っていませんが、以外と保護者のお母さま方の話で、高校へ進学する際の推薦をもらうために、部活動をやらせるというような話も結構あります。推薦をもらう際に民間のスクールでも部活動と同じように判断するのか、例えばクラシックバレーを一生懸命やっていてコンクールにも出ていますが、推薦で学校の部活動ではないと判断させられてしまうようなお子さんもいますので、今までは認められなかったけれど今後はどうなるのかなどかなり細かくいろいろなことに関わってくると思いますのでたたき台を期待して待っています。よろしくをお願いします。

(教育部齋藤次長) 今のお話はすごく重要なところだったと思えます。逆に地域移行が進むことで今おっしゃっていた、拾われていなかった活動をしている子供たちも同じように拾うことができるというのがいい点だと思います。フィギュアスケートをやっているなどいわゆる窓口部、中体連に出るためだけに先生たちが部活動として持

っているような競技がたくさんあるのですが、それ以外にも中体連のあるなしに関わらず、子供たちが頑張っている活動を拾っていけるような、イメージだけで言っていますが、大事なところだと思っております。

(福原教育長) どうしても話がしやすいこともあり、題材としてスポーツが多くあげられていますが、文化部もありますので斎藤次長もいうように子供たちにとってどういった形がいいのか難しいところだと思います。非公式ですが、町と町で一緒にやろうだとかお話しされているところもあるようですし、私のところにももしそうなたら相談のってほしいという話が正式ではなく立ち話の際にあり、他の市、町の教育長や教育委員の方々も頭を悩ませていました。そんな中で来月総合教育会議はこの案件で予定しており、ロードマップも示されるということですので、来月全てに決着がつくというわけではありませんが、引き続きこの案件についてはよろしくお願いをしたいと思います。

他に何かございませんか。

(一同「なし」の声)

(福原教育長) 質疑がないようであれば、原案どおり決定することによろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

(福原教育長) それでは、報告第1号の質疑を終結いたします。

報告(2) 校長会及び教頭会からの文教施策要望について

(総務企画課長) -校長会及び教頭会からの文教施策要望について説明-
(福原教育長) 質疑に付します。何かございませんか。
(佐藤委員) 6 ページ、3 番の安全安心な環境づくりにむけての 2 教職員の増員の ①学校のニーズに応じた支援員の増員の 4 行目のところ、ICT 支援員については市教 委にて ICT ヘルプデスクの業務委託をしておりますがどこにいらっしゃるの すか。
(総務企画課長) ヘルプデスクにつきましては、民間の委託業者に依頼しており、 2 階の総務企画課 ICT 担当の方に現在 4 名おります。
(福原教育長) 校長会から頂いた要望に対して資料には載っておりませんが、教育 長のコメントとして、ICT に関連した部分については、私が昨年就任してすべての学 校を回った際に子供の数によって通信環境が違い、大きい学校などにおいてはかなり 不具合があったということもありましたので、そこは早急に手を打つよう昨年度から 伝えました。また、校長会からも要望として、働き方改革も絡んでくると思いますが、 人手不足や増員に関する話がありました。働き方改革という言葉は数年前から出てい るところであり、私も出身は公務員ですが、民間の動きとセットでコメントを述べて います。民間はただ働き方改革として人を増やせだとか、自分の時間を取れるよ うにしてくれということを求めているのではなく、必ずその裏で何か手を打っており、 当然株主や従業員を含めた双方に利益のある関係を作るために投資をしている中でや っています。学校現場だけを言っているわけではないですが、国家公務員であれ、地 方公務員であれ、教育公務員であれ、国民市民子供たちに対しての質の向上を目的に 働いているのが公務員ですので、当然そういうことも考える必要があるのではないかと 投げかけました。ただただ人を増やせだとかあるいはこうだから直せだとかだけで はない考え方が必要ではないかということはお答えしました。あれを入れてくれ、こ れを入れてくれ、というのももちろん要望なのでいいのですが、これは市が予算措置 をしますので、予算の権限は市長にあり、これは市長部局の予算要求も同じですが、 当然国や道からの財源補助金の見通しなどそういったものを自分たちで調べたうえで

財政との協議が必要になりますので、検討せずにとただこの事業がやりたいから予算をつけてくれと要求しても100%つきませんとはっきり伝えました。要は何かを始めるときには何かを捨てる覚悟も必要ですということで事業なり施設の部分でそういったことも考えたうえで要求をしてほしいということは、相当省略しましたが教育長コメントとしてお伝えしました。

(高橋委員) 7ページの③にジェンダーフリー化という言葉が出てきていますが、実は社会問題の一つとして私の所属している団体も、たまたまなのですが来月同じような話を本市の男女平等参画の方々を交えてお話させていただきます。今子供たちの教育現場の中でのLGBTQ、特にトランスジェンダーの子たちの比率や、今の子供たち自身の考え方も、どう考えているのか、どのような形で進んでいるのか実際にいるのかいないのかについて教えていただけますか。

(教育部東峰参事) 正確な数については申し上げられませんが、実際保護者の方から相談の電話が指導室には入ってきております。進学にあたり性の問題、あるいは学校生活のことで心配なので、ということで実際に学校へお返しして、保護者の方と学校との間で打ち合わせをしながら慎重に対応を進めていきたいと思います。進んでいる案件もございますし、すでにそういった形で自らの意思を表明しながら学校生活を送っている生徒さんもいらっしゃいます。

(高橋委員) 統計的な話だけでいいのですが、ある程度様々な形での自由を認めるような状況にこの分野がなってきたという背景も含めて、大丈夫だとたきつけてことにより表立ってきたものが増えたのか、それともそもそも論としてそういう性に関する意識や考えることについても自由になってきたことによって、そういう問題が出てきて増えているのか考えた時に、実際増加傾向にあると思われているのかいないのか、お答えできますか。

(教育部東峰参事) 実際に私が教育現場にいたころから比べますと最近は増加しているというふうに感じておりました、実際そういった相談、動きも増加しているのとらえています。

(高橋委員) ありがとうございます。今聞いたのは実はこれから考えなければいけない一つの課題で、実際社会に出てからが一番苦労されると聞きますし、社会整備体制が企業としてあるかないかが非常に大事なことで、そのことについてうちの団体で組織を作っていこうという話があり、救済することだけが目的ではありませんが、私自身、苫小牧市はなんとなく他地域に比べて多い気がしており、この件とはまた少し違いますが、障がいを持たれている方や何か一般的な人とは違う方を含め、社会的な政策の中でこれからの企業づくりを考えなければならないときに、教育現場に直接聞いた方が間違いなく早いと思いご質問させていただきました。

(福原教育長) 他に何かございませんか。ないようであれば、質疑を終結することとしてよろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

(福原教育長) 質疑がないようであれば、原案どおり決定することによろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

(福原教育長) それでは、報告第2号の質疑を終結いたします。

第3号 教育委員会職員の人事異動に係る協議について

第4号 教職員の事故に関する北海道教育委員会の判断について

第5号 教職員の事故に関する処分内申について

(福原教育長) 次に、報告第3号から第5号についてですが、人事案件でございま

すことから、教育委員会会議規則第21条の規定により秘密会としたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

(福原教育長) それでは、報告第3号から第5号を秘密会とし、本会議の日程の最後に審議することに決定いたしました。

(福原教育長) これより、先ほど秘密会と決定しました報告第3号から報告第5号について審議をいたします。関係者以外は退席をお願いいたします。

(福原教育長) それでは、委員会を再開いたします。なお、報告第3号から報告第5号につきましては、報告どおり終結したことを申し添えます。

7 その他

(福原教育長) 次に、その他でございますが、事務局、委員の皆様を含めて、何かございますか。

(一同「なし」の声)

8 委員会閉会の宣言 (福原教育長)・・・16時00分